

学校教育 市内小中学校の取り組み 研究学校の取り組み事例

市教育委員会では、毎年市内小中学校の指導方法改善のため、いくつかの課題について数校に研究を委嘱しています。今回は、平成23年度の研究指定校の取り組みを紹介します。

学習指導研究校・

大田原小学校の取り組み

共に学び合う児童を目指して

大田原小学校は平成22・23年度の2力年にわたり、「共に学び合う児童を目指して」考えを認め合い、学び高め合う学習指導の工夫」という研究テーマで研究をしました。

学校で行う学習の大きなねらいは、さまざまな考えや思いをもったもの同士が互いに理解し合い、認め合いながら、自分や友達によさに気付き、高め合いながら成長していくことにあります。

そうした互いに学び合える学習を行うためには、どういう授業を行えばよいかを2年間研究し、実践してきました。

子どもが真剣に学び合う授業

授業では、写真①のように、子どもたちがお互いに学び合う場面を設定しています。子どもたちが自ら疑問に思ったことを友達に聞いたり、悩んでいる友達にアドバイスを送っ

たり、お互いの意見を伝え合ったりしています。「クラスみんながわかること、クラスみんなができること」を合言葉に子どもたちは学び合っています。

授業を参観すると、一生懸命友達に説明する子、何度もくり返し友達に質問する子など、子どもたちの真剣に学ぶ姿が感動的でした。



写真① 学び合う子どもたち

文部科学省・栃木県教育委員会からも指定「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」

平成23年度は文部科学省・栃木県教育委員会からも「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」に関する研究学校として指定されました。

指導者には、教室「学び合い」の提唱者、上越教育大学教職大学院教授

西川純先生をはじめ、同准教授水落芳明先生、そして県教育委員会の各教科担当の先生方にもお願いしました。

これからの時代を生きる子どもたちのために

昨年の11月25日には、広く県内外の先生方に授業を公開しました。遠くは長崎県から参加した先生もおられました。授業後、西川教授から「何故、『学び合い』で学力は向上するか?」との演題で講演をいただきました。(写真②)

さまざまな特性のある子どもたちが受け身で授業を受けているだけでは全員に力は付かないこと、そして、複雑化する社会の中では、互いに学び合う授業でみんなが分かること、みんなができることを目指すことが大切であること、それが学力の向上だけでなく、人間関係の向上にもつながるとおっしゃっています。



写真② 西川教授による講演

渡邊校長先生は、「学び合い」は学習指導のみならず、児童同士や児童と教師の人間関係づくり、学級や学校経営の改善につながるとし、今後

も研究を継続していきたいとおっしゃっていました。

「心の教育」研究校・奥沢小学校の取り組み

道徳授業の充実を目指して

奥沢小学校は今年度、「思いやりの心をもつ子どもの育成」心に響く道徳の授業と体験活動を通して」というテーマで研究をしました。

心に響く道徳教育を展開し、子どもの心に直接働きかけ、心の豊かさとして、「心を揺さぶる発問の工夫」「多様な考えを引き出す発問の工夫」「話の工夫」など、道徳授業のさまざまな研究実践をしてきました。(写真③)



写真③ 道徳授業の様子

心に響く体験活動の実践

奥沢小学校は、地域の人々や異年齢の子ども同士の交流は、他の人たちとの直接的なかかわりを持つとても重要な活動であると考え、さまざまな体験活動の実践を積み重ねてきました。(写真④)

また、体験活動後には、感じたり気付いたりしたことを文章にまとめ、子ども同士で伝え合う活動も取り入れました。

各教室や廊下には、子どもたちの活動記録がたくさん掲示してあります。



写真④ 縦割り班による田植え

体力づくり研究校・佐良土小学校の取り組み

楽しく体力づくりに取り組む児童の育成を目指して

佐良土小学校は、平成20年度の小中一貫(連携)教育研究校(大田原市教育委員会指定)に続き、平成23年度は、「楽しく体力づくりに取り組む児童の育成」豊かなかわりを通して「をテーマに体力向上について実践研究してきました。

全国的に児童の体力低下や運動習慣の二極化が進む中、体力づくりを教科体育に限らず、日常生活での継続的な運動習慣の確立ととらえ、児童の発達段階に応じた心と体の調和のとれた体力向上を図ることを狙いとして全校体制で研究に取り組みました。

授業づくり部会 ～児童相互の学びあいを通して～

低学年・中学年・高学年ごとに体育科指導計画を作成。年間を通じて、2学年ごとの合同体育が行われています。

運動会の時期に合わせ、表現運動と走の運動を5月に位置付けたり、児童の発達段階や運動能力に応じてグループ別学習を工夫したりと、授業づくり部会を通して、学年間の連携を深めながら質の高い授業づくりを研究してきました。

昨年12月には、市内体育部会授業研究会の会場校として、体育科の授業を公開しました。



写真⑤ 公開された体育科の授業

体力づくり部会 ～タイヤコースの設置、いきいきタイムの活用～

●主な実践内容

- 1 遊具の新設と活用 PTAの協力でタイヤコースの設置
- 2 教科外における体育的活動
- (1)金曜日の業間(いきいきタイム)の活用

- (例)縦割り班による全校リレー
- (2)水曜日の昼休みの縦割り班遊び

(例)縦割り班ごとに種目を決めて遊ぶ

- (3)第4水曜日の体育集会 体育委員会主体による運動遊び
- 3校庭の遊具を利用してのサーキットトレーニングコースの設置

- スタート↓①タイヤ跳び②ダンス③ジョギング④ジャンブル⑤サイドステップ⑥うんてい⑦上り棒↓ゴール

4 その他の活動

- (1)一輪車遊び(写真⑥)
- (2)縄跳びがんばりカード
- (3)マラソンがんばりカード
- (4)親子で体力づくりカードの実施



写真⑥ 一輪車遊び

健康づくり部会 ～ほかほかタイムの実施～

保健の授業において、養護教諭と担任のチームチームチンングや専門家を外部講師として招いての「歯みがき指導」「思春期教室・薬物乱用防止教室等」を実施しています。

また、平成18年度から、児童の心の健康のための取り組みの一つとし

て「ほかほかタイム」という活動を実施しています。リラクゼーションの一つの方法である深呼吸による呼吸法に全校生が取り組み、毎週火曜日と金曜日の朝の活動時にゆったりとした音楽を流しながら各教室で実施しています。

栃木県教育委員会からも指定「体力向上実践事業」

栃木県教育委員会からは、「体力向上実践事業推進校」として指定され、昨年12月19日には、県教育委員会が学校を訪問し、校庭での縦割り班対抗リレー(写真⑦)や30mタイヤとびダッシュなどの活動の様子を視察しました。全校生が一体となり、校庭中に子どもたちと先生方の元気な声が響き渡りました。県教育委員会の方々も感動されてお帰りになりました。

赤羽校長先生は、「豊かなかわりを通じた本校の体力づくり」は体力の向上のみならず、児童同士や児童と教師の人間関係づくり、学級や学校経営の改善につながるおっしゃっていただきました。



写真⑦ 縦割り班対抗リレー

言語力育成研究校・
川西小学校の取り組み

思いを伝え合える子どもの育成を目指して

川西小学校では研究主題を『生きる力』の基礎としての言語力育成の思いを伝え合える子どもの育成』とし、目指す子ども像を設定して、大きく三つの部に分かれ、それぞれ研究しました。

●目指す子ども像

自分の思いや考えを、相手に分かりやすく話したり表現したりすることが出来る子ども

●授業研究部

- 授業改善の工夫
- 年間指導計画の作成
- 話し合い活動を習得させるための具体策

●言語活動部

- 言語活動への取り組み
- 1 スピーチタイム
- 2 名文スキル音読
- 3 お昼の放送の工夫
- 4 集会活動
- 5 「ことばノート」作成

●調査・資料作成部

- 学習環境整備
- 1 掲示物の工夫
- 2 マニュアルシート、ワークシートの工夫
- 実態調査

伝え合いを通して学びを深める「か・い・た・つ・ステップ」

川西小学校の校心「開達（かいたつ）」は、「目を開き、心を開き、知徳を磨き、体を鍛え、おのおのその志を達する」という考えを示したものです。

この「開達」の考えを授業の流れに反映させたものが「か・い・た・つ・ステップ」です。明確な学習のねらいをもって子どもたちが自分の考えを伝え合い、考えを深め、次の学習へ意欲をもたせることに効果を上げています。

かだいをつかむ…授業のゴールを知り、ねらいは赤線で囲む。いっしょにまなぶ…自分の考えを友達に伝える。たいせつなこと…分かったこと、できたことをまとめ、青線で囲む。つぎにむかって…授業を振り返り、復習することや次の授業の内容を確認する。

ふせんやホワイトボードを使って、話し合いを活性化

「いっしょにまなぶ」場面では、ふせんやホワイトボードを活用しています。自分の考えをふせんに書くことで、内容ごとに分類したり、友達の意見と関連付けたりすることが可能になります。何色かのふせんを使

うと視覚的にも分かりやすく、自分の考えが明確になり、子どもの発言の量も質も向上するそうです。（写真⑧）

さらにホワイトボードを使うと、グループの意見をまとめることも短い時間で可能になります。（写真⑨）



写真⑧ 付箋紙を使ったグループ活動



写真⑨ ホワイトボードを使った学び合い

豊かな「ことば」を育てる音読、読書、そして「ことばノート」

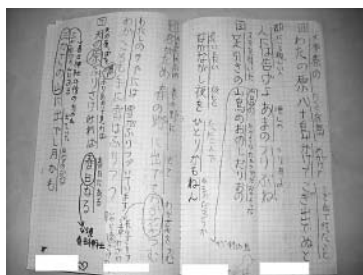
授業以外にも子どもたちの「ことば」を豊かにするさまざまな取り組みを行っています。大きく分けると、三つの特色ある

取り組みが見られます。

一つ目は、音読です。集会活動や校内放送で音読を発表する場を設け、朝の学習や家庭学習で練習した音読の発表を行っています。

二つ目は、読書活動の工夫です。読書クイズを行ったり、図書館ボランティアや図書委員による読み聞かせをしたり、必読図書を選定したり、さまざまな手段で子どもたちを読書に誘っています。

三つ目は、語彙力をつけるため、専用の「ことばノート」を一人一人が作成していることです。国語辞典で調べたことをまとめたり、集めたことわざや四字熟語、古典の文章などを書き込んだりと、各学年に応じた「ことばノート」作りに励んでいます。（写真⑩）



写真⑩ ことばノート

豊かな「ことば」を育てる豊かな環境

校内には、子どもたちの「ことば」を育てる仕掛けがいたるところに見られます。

先生方がことわざを掲示するコーナーを作ったり(写真⑪)、図書館ポランテアの方々が本を紹介するコーナーを作ったり、子どもたちが作った言葉に関する作品が飾られていたり、校舎を回るだけで「ことば」の勉強ができてしまうような環境です。

さらに川西小学校の先生方とお話をする、先生方の話し方自体が分かりやすく、正しい言葉を使おうとする意識が高いことが分かります。やはり子どもの「ことば」を豊かにするのは、関わる大人の「ことば」への意識なのだと感じました。



写真⑪ ことわざを掲示するコーナー

金田北中学校区小中一貫(連携)教育の推進

義務教育9年間を見通した特色ある学校づくりを目指して

金田北中学校、市野沢小学校、羽田小学校の3校は、今年度から大田原市教育委員会の指定を受け、小中一貫連携教育に取り組んでいます。

これは、義務教育9年間を見通し、各校の共通の目標の下に、それぞれ

の学校の良さを生かしながら連携し、児童生徒への指導を円滑に進めていく取り組みです。

研究組織として、教育課程研究部会、学習指導研究部会、児童生徒指導連絡部会の3部会を設置し、各校の実態を踏まえながら、活動内容を協議し、共通理解を図りながら取り組んでいます。研究部会ごとに、情報の交換や指導法の工夫、行事の調整など多面にわたり連携を図っています。

具体的な取り組みについて、そのいくつかを紹介します。

小中合同学習 ～「熱中症予防対策教室」の開催～

7月4日には、二つの小学校の5・6年生児童と金田北中学校の生徒を対象に健康教室を中学校体育館で開催し、「熱中症予防対策について」の学習を行いました。講師として大塚製菓の管理栄養士を招き、熱中症の原因やメカニズム、全国での発生状況や具体的な対策などについて学習することができました。

(写真⑫)

また、バランスのよい食事のとり方などについても、学ぶ機会となりました。



写真⑫ 熱中症予防について説明を聞く小中学生

小学生にとっては、中学生とともに受ける初めての学習であり、また中学校の施設を知る機会ともなりました。環境を含め徐々に中学校への理解を深める場にもなっています。

相互授業公開・参観 ～市野沢小新聞記者を招いての授業～

各校で取り組んでいる研究課題に応じ、研究授業や学校公開の際に、職員による授業参観を実施しています。各校の児童生徒の学習や生活の状況について相互理解する機会となり、金田北中学校区の一貫した研究に効果的です。(写真⑬、⑭)



写真⑬ 新聞記者による授業



写真⑭ 研究授業

3校の保護者が参加しての教育講演会開催 ～宇都宮大学教授を招いて～

昨年12月17日には、3校の保護者を対象に教育講演会を開催しました。宇都宮大学教育学部教授 松本敏先生を講師に招き、「これからの時代に必要な力を育てる家庭教育をテーマに、これから子どもたちに必要とされる学力やその伸ばし方、親としてのあり方などについて講話をいただきました。

参加者からは、「大人も子どももコミュニケーションの力が大切であると再認識できた」との感想などが聞かれ、大変有意義な研修となりました。(写真⑮)



写真⑮ 教育講演会

今後、中学校の英語の教員による、小学校での出前授業、学校相互の情報コーナーの設置など、3校のコミュニケーションを図りながら、実践的な活動に取り組んでいく計画です。

問い合わせ

学校教育課 学校教育係

TEL (98) 7113